

…主イエスのまなざしと出会う…

神さまに、隣人に、そして社会に仕える



# 会報

発行所:日本福音ルーテル教会女性会連盟  
〒169-0072東京都新宿区大久保1-14-14  
TEL/FAX:03-3207-2340  
Web:https://www.jelc-w.org  
E-mail:jelc-w@big.or.jp  
発行人:八木 久美・編集人:廣瀬美由紀

2021.10.15

163号

25期1号

## JELCW ニュースレター

Japan Evangelical Lutheran Church Women

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい ローマの信徒への手紙12章15節

### 巻頭言

## 「違うからこそ」

日本福音ルーテル大牟田・久留米・田主丸教会 牧師 西川 晶子



詩人のまど・みちおさんの作品に、有名な「ぞうさん」という作品があります。おそらくほとんどの人が聞いたことがあると思われる有名な童謡ですが、この「ぞうさん」という童謡は実は「『鼻が長いね』と悪口を言

われたぞうの歌」なのだ、まどさん本人が、生前、同じ作家仲間である阪田寛夫さんに語っています。

「ぞうの子は、鼻がながいねと悪口を言われた時に、しょげたり腹を立てたりする代わりに、一番好きなあさんも長いのよと、誇りを持って答えた。それは、ぞうがぞうとして生かされていることが、すばらしいと思っているからです」(阪田寛夫「まどさんのうた」童話屋 1989)。

また、まどさんはあるときこうも言っていたと、阪田さんは書いています。「目の色が違って、肌の色が違って、伸よくしよう、というけれども…(中略)…目の色が違うから、肌の色が違うから、すばらしい。違うから、伸良くしようというんです」(前掲書)

「～ても」「～かわらず」という言葉を私もつい使ってしまう、あとから「あれは適切だったかな？」と振り返ることがあります。たとえば「性別、国籍、セクシャリティなどにかかわらずすべての命が大切にされるように」というようなニュアンスです。誤った使い方ではないとは思いますが、しかし

私たちは「性別や国籍、セクシャリティなど、それぞれ異なるところのある命の豊かさによってこそ、私たちはお互いに大切にしよう」と、違いをこそ恵みとして、より豊かに捉えることができると思うのです。

まどさんには、戦争中、植民地の言語を奪って日本語に統一しようとする「皇民化政策」を積極的に推進する文章を書いた過去もあるそうです(平松達夫「消せなかった過去-まど・みちおと大東亜戦争」朝日新聞出版、2017)。

これは私の想像にすぎませんが、「ぞうさん」の歌をめぐる一連のことばには、そのような昔の自分への反省も込められているのかもしれませんが。私たちのすべてが、まどさんと同じような弱さを持っているものだと思います。しかし、創世記1章1節「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった」。弱さを抱える自分もまた、このみことばに確かに捉えられている。そのことに気づくことから、本当の意味で「共に生きる」歩みが始まるのではないかと思います。

### プロフィール

2006年 日本ルーテル神学校卒業。現在、日本福音ルーテル大牟田・久留米・田主丸教会牧師・久留米教会附属日善幼稚園チャプレン。